

再生

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



写真提供：浅井周英先生

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

逝くものはなべてかなしも冬川の

水の流ればとどまらなくな

森信三先生あいうえお語録より

第0040号

2019.12月号

令和元年

実践人福岡仁風読書会

現代における考の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

五 親を軽視するものは

自己の運命を呪うものといえよう

絶対的不軽

ところでこの章の本题にもどるとしまして、結局、親の運命がまずあって、しかる後自分の運命もスタートしたわけでありませぬ。しかもわが意志のいかんを問わずにスタートしたわけでありませぬ。それゆえいのちの連関からいえば親と自分とは、いわば運命的紐帯によつて結ばれている運命共同体とも申せませぬ。

それゆえ親をその所業によつて軽視するということは、ひつきようして自己を軽んずることでありませぬ。随つてまた親を軽視する者は自己の運命を呪うものであり、自己の運命に唾を吐きかけるようなものでありませぬ。かかる人たちは、まさに文字通りに忘恩背信の徒と言ふべきであります。それゆえ少なくとも親だけは絶対に軽視しないという、不軽の信だけは、おたがいに持ちたいものであります。絶対不軽の最低基本線だけは、深く遵守したいものであります。ここで思い起こすのは「親を軽んずる者は自己の運命の繁榮律に反する」という橋本徹馬氏の一語でありませぬ、とりわけ肝に銘ずべき真言でありませぬ。

六 親はすぐれたるが故に敬するに非ず、

親たる事実のゆえに敬するべきである

西晋一郎先生

この章の表題の一語は、明治以降のすぐれた哲人の西晋一郎先生のお言葉ですが、これほど端的明白に「孝」の哲理を道破せられたのを存じませぬ。西晋

実践人福岡仁風読書会 第37回 11月2日(土)

場所福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 仁風庵にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

生は、わたくしが広島高師時代に学び、かつ「生涯の師」と仰いだ方ですが、わが国の学界では今日にいたるも先生の評価の眞の位置づけは、まだ為されていないと申してもよいでしょう。わたくしの見るところでは、明治以降の日本の生んだ最も独創的な哲学者の一人と申してよい方でしょう。そして今お一人は、みなさん方もご存じの西田幾太郎せんせいでもあります。

わたくしは西田先生には、京都大学の哲学科で教わたったのですから、思えばわたくしは日本の生んだ眞に独創的な哲学者であるこのお二人の方に、若き日学び得たわけでありませぬ、そぞろにわが身の幸慶をおもわずにはいられないのであります。随つてこのお二人の先生は、今日なおわたくしの心中に生きていられるわけですが、そのうち西先生という方は揚子江の川上三千里の山中に、訪う人もなき湖の水面に映る月影のような方ではありますが、これに反して西田先生という方は、滔々たる揚子江の大河を思わせるような逞しい生命力をもつた方で、まことに対照的と申してよいと思ひますが、しかしそこには深い共通点もあるのでありませぬ、その一つは共に北条時敬先生を師と仰がれたということであり、今ひとつは、ともに処女作を四十歳頃に書きあげていられるのであります。

このお二人の方についてお話すればキリがありませんのでこれ位にして、西晋一郎先生のことをもう少し申したいと思ひますが、西先生の処女作は「倫理哲学講和」であり、その代表作は「忠孝論」でありませぬ、日本の儒学の祖中江藤樹先生をたいへん尊敬され、わたくしが藤樹先生を尊敬するようになったのも、つまりは西先生のお導きによるわけであります。

ドモリと習字

興膳君のお母さんの手記が、朝倉郡父母教師連合会発行の「PTAの友」拾周年全国表彰記念号に載っているのを転記して参考に供したい。

ドモリと習字

三並 興膳 利子

玩具で無心に遊んでいた子が、ゴーツという飛行機の音に怯え、大きな物音、大きな笑い声にさえ気を失うこと二度三度ではなく、農家の忙しさに、いつもの目ばなしもできず、姑親のいない私共夫妻は失神した子を抱いてオロオロしたことも幾度かあった。漸く誕生を過る頃には、ふさぐことは直りました。離乳期の消化不良から慢性腸炎にはホトホト閉口しました。その上このころからついたドモリ。そして、六才の時の夏の自家中毒、高熱に冒され無意識のまま死線をさまようこと五日、遂に医者からも見放された子供を抱いて泣き続けた幾夜でございましたが、七日目急に「生命危険区域脱す」の医者の言葉を聞いた時の私共の喜び、とても筆舌につくすことはできません。やせ細って歩くこともできなかつた子供の病後の相手をしながら。よくもあの危険から脱れたものだと思議なくらいでした。

しかし、私共の喜びも、更にひどくなったドモリにうちひしがれてしまいました。た。

「どうしよう」学校もあと一年しかない」ので、あの医者、この病院へと。併し何の効き目もありません。子供かわいさ、不憐さの余り、色々と信仰も致しました。よくならずとも出来ず、学令期を迎えてしまいました。

本当に夏の日も水遊びもさせられず、普通の食事もできず……………。

こうした長い間の病氣とドモリのために、元気がない、自主性に乏しい、無口な、一人では遊びに行けない子に育ってしまったのです。この総領息子の入学の日を迎えた私共の喜びと不安は、「毎日学校へ行けるだろうか」「お友達と一しよに遊べるだろうか」「先生へお話することができるところか」「ドモリと

笑われはしまいか」「泣きはしまいか」と、しばらくは仕事も手につきませんでした。

帰りの時間が少し遅れても駆け出して行かずにはおれなく、少しの雨にも寒さにも迎えに行ったものでした。「クセになるから」と言われる方もござい、ましたが、丈夫に育てたお子様をおもちのお母様方へは私の心境など分る筈はございませんと申って、何か悪いことでもするかのようにコソソリ学校へ足しげく行ったものでした。

「手があがらない」「元気がない。」は、一年生の時のいつもの先生のお言葉でした。それから或る雨の日に授業参観に行った時のことです。ちょうど算数の時間でした。私の出現に勇気を出したのでしょうか「ハイ」と手をあげて発表しましたが、二十五の二が、心には思っているがなかなか言葉にならず、「十五」と聞こえたのです。「ハイ」と割れるようなお友だちの声。先生はやさしく「二十五」ねと言つて下さいましたが、私は胸をえぐられるようで、「母ちゃんを許して」と後ろを向いてそっと涙をふいたこともございました。

「どうしたらいいだろう。いつまでこんな惨めな思いをさせなくてはならないのだろうか。」「何か自分にできるぞという自信を持たせなくては。」「と思ひながら二学期も終わつてしまいました。

そうしたら、三学期の初め頃でしたか、習字の「山川」と書いた紙に大きいまゝるをたくさん貰つて、喜んで帰ってきました。その時「そうだ。習字なら口で発表をしなくともよい。」からお家でも書かせ、そしてこの子と共に稽古してみようと決心しました。

おおきな赤いまるに勇気づけられ、自分の努力を認めて貰うことに大きな喜びを感じ、どんな成績にもひるむことなく、飽くこともなく、毎日の朝倉書道会の月例競書に、揮豪会に、本当に一生懸命練習したものでした。

「習字ばかり良かつても」とか、「実社会に大して役にも立たない」とか色々批判の声を耳にしながら。

第18回 福岡空港ミليون清掃

11月2日(土曜日)

9名参加



新新塚駅早朝清掃/いづか明星寺団地自治会

11月23日(土曜日)



日美会事務所周辺(自分のデビュー) 東京都新宿区

11月12日(火曜日)



鍵山事務所の阿部さんが10月で退職され、長年続いた菅刈公園早朝清掃が終わりをお知らせを先月号でしました。いい意味で舌の根も乾かない内に、「新宿日美会周辺の早朝清掃」が始まっています。いつものように早朝5時半には、道友数名が集い、道路わきのグレーチングを持ち上げ、永年堆積した土やゴミを取上げました。中でも、感動的だったのは、超人阿部さんのグレーチングに顔をつっ込み片手でゴミをすくう姿が、鍵山相談役のかつての姿と重なり合ったことでした。(写真左上)鍵山掃除道は永遠ですね。

第117回 冷泉公園&櫛田神社早朝清掃

11月3日(日曜日)



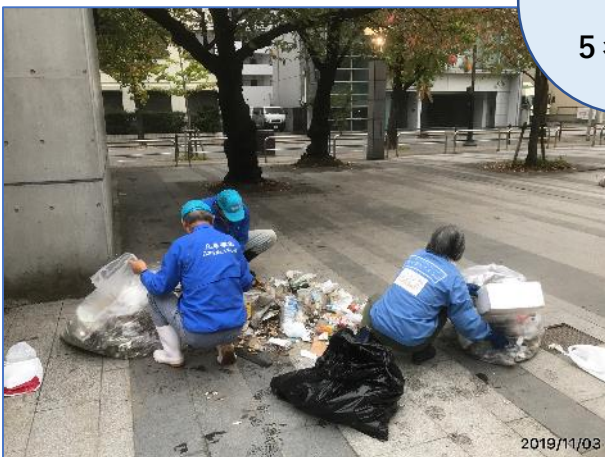
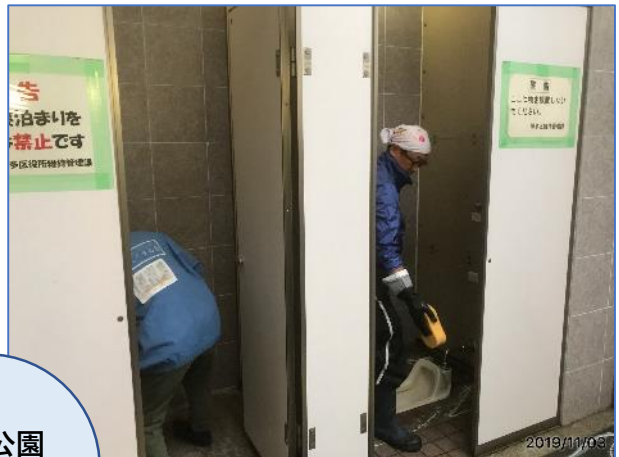
櫛田神社

5名参加



冷泉公園

5名参加



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第311回

博多駅 早朝清掃

毎月**8**日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイド



第312回 博多駅早朝清掃

11月8日(金曜日)

64名参加



第312回「博多駅早朝清掃」は、この日満26周年を迎えました。記念すべき節目にJR九州博多駅中野駅長も参加いただきました。駅長さんの座右の銘は「凡事徹底」自らマイホーキを持ってクリーンUPされています。





楽農人の試験圃場で栽培したさつま芋、里芋、ショウガの収穫を、掃除道友で楽しく行いました。11/2



新潟県十日町の山間部で農村振興に取り組んでおられる村山社長様とご縁を頂き、現地を視察させていただきました。新潟へGO! です。



11月9日～10日、伊藤掃除に学ぶ会に初めて参加させていただきました。これまで、日程が博多駅早朝清掃と重なりなかなか思いが叶わず、今回が初となりました。行きは、都内から菅原さんの車に便乗させていただき終始お掃除談議。現地での講演会も竹内先生の、広島暴走族壊滅「トイレ掃除の奇跡」にまつわる壮絶な活動を聴かせていただき、感動を共にいたしました。

はなれた自然ばかりを詠んでいたわけではないことに注意したい。

ルソーにしても、たとえば「孤独な散歩者の夢想」における「自然」は、じつは田園のうちに日々を送る常任坐臥の風物であつて、すだまのひそむ浪漫的自然は、むしろ垣根越しに遠望されるように描かれるにすぎない。

ワーズワースもまた、人里はなれた山の中に住んでいたわけではない。彼が「終の栖」としたライダルマウント荘は、古い農家を借りうけて瀟洒に改造したものだ。そもそも湖水地方が、果樹園の茂み、農家のかきね、鄙ぶる農園、立ちのぼる里の煙、小さな牧場……いずれも親しげな人里の風景である。めくるめくような自然美の劇薬に魂を奪われた詩人の身体は、鶏犬間違える田園に浸つていくといつてもよい。あるいはまた、こうもいえる。人間くさい道具立てにしつかり取り囲まれているからこそ、安心して自然を楽しめるのだと。逆にまた、背景にまず手つかずの自然をおき、そこへ生活景の楔が打ち込まれた風景にこそ面白味があるのだと。自然風景画や叙事誌には、その芸術的構図上、作者の足場となる自宅などの生活の近景が省かれることがある。しなしその近景が、風景論にとつてなかなか重要な意味をもっていることは、おいおい述べることになるだろう。

どんな魅惑的な自然でも、日常の生活舞台上に身をおいて眺めるのが最も当たり前の楽しみ方である。たとえ大自然に踏み込んでいったにしても、自分の自体という日常性を離れて風景はないことに、あらためて注意が向けられてよい。

地球で最古に属するオルドビス・シルル記の地塊がカレドニア造山運動によって起伏を与えられ、さらに氷蝕によって生じた窪地のあちらこちらに水がたたえられている。アルプスよりはるかに古くから苛烈な気候に鍛えぬかれたすえの、茫茫として、むしろ穏やかな山容の狭間、U谷の岩壁が吸い込まれてゆく湖水の幽邃な趣と、その岸辺に枝を流すイングリッシュオークの孤影に、旅人は感動する。わたしがこの古典的な山水を見ておこうとしたのは、近代風景思想の一つをそこに探りたかつたからである。これと姉妹関係にあるもう一つの源流は、いうまでもなく、ルソーやゲーテが活躍する舞台となったヨーロッパ、アルプスの山麓である。

ところで文学史家の論ずるところをわたし流に要約すると、浪漫的風景観を涵養しているいっそう深い伏流が二つある。その一は、十八世紀に翻訳されて初めて人びとに知れわたつたケルト叙事誌「アシアン」に描き出されている、荒寥として崇高な自然の世界と、ときには哀愁をおびた相貌で人を圧倒する、幽鬼じみた、尋常ならざる自然美の世界である。もう一つは、古代ギリシア叙事誌「イラ」につづいてきた。絵のように明るく甘美な田園詩に描かれる、懐かしい人里の風景である。つまり、「オシアン」というキリスト教渡来以前の土着の自然思想があらためて人びとに知られ、その衝撃が、伝統的な田園詩の映像に新しい空間的拡がり豊かな彩色をほどこすことになった。自然美に対する開眼と精神の浪漫的飛躍への契機を与えたのは全者であり、これが浪漫的風景論の通念的性格を決定づけているのである。けれども、依然として甘美な田園詩の風景描写と詩情の伝統も保たれている。したがって、一口に「自然詩人」といつても、人里

風景学入門より

中村良夫 著

中公新書 一九八二年

二〇一九年一月二〇日
広葉の林を育てる会





再生十二月号

令和元年十二月八日発行 (毎月一回八日発行) 創刊 平成二十八年九月一日

発行人 富吉 袈裟右衛門

12月の活動予定表											令和2年1月の活動予定表					
日	2	7	7	7	8	15	15	17	21	22	4	5	5	8	25	28
曜	月	土	土	土	日	日	日	火	土	日	土	日	日	水	土	火
行事活動名	埼玉県農業生産者 支援	福岡空港ミリオン清掃 第19回	仁風読書会	福岡掃除に学ぶ会 年次大会	博多駅早朝清掃 第313回	櫛田神社トイレ磨き	冷泉公園トイレ磨き&トイレ拾い 第110回	鹿児島県農業生産者 支援	新飯塚駅早朝清掃	年末餅つき大会	福岡空港ミリオン清掃 第20回	櫛田神社トイレ磨き	冷泉公園トイレ磨き&トイレ拾い 第110回	博多駅早朝清掃 第314回	新飯塚駅早朝清掃	埼玉県農業生産者 支援
場所	埼玉県川越市	福岡空港 周辺一万亩	福岡空港 月隈第一緑地	ホテルクリオコート博多 オリエンタルホテル 福岡	博多駅筑紫口	櫛田神社	冷泉公園	鹿児島県始良市・南九州市	福岡県飯塚市	仁風庵	福岡空港 周辺一万亩	櫛田神社	冷泉公園	博多駅筑紫口	福岡県飯塚市	埼玉県川越市
開始時刻	1日~2日	6時30分	7時30分	13時	6時00分	6時	6時40分	17日~23日	6時30分	9時	6時30分	6時	6時40分	6時00分	6時30分	28日~29日
運営団体	NPO法人楽農人	福岡掃除に学ぶ会	福岡実践人	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	NPO法人楽農人	いづつか掃除に学ぶ会	楽農人・福掃会 合同	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	いづつか掃除に学ぶ会	NPO法人楽農人

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

- ◇福岡掃除に学ぶ会/認定NPO法人 日本を美しくする会
- ◇福岡仁風読書会/一般社団法人 実践人の家
- ◇仁風自然塾/特定非営利活動法人 楽農人

<合同事務局> 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>
 TEL 092-931-8155(掃除) 931-8150(読書) FAX 092-931-8120
 E-mail fukusoukai@souji.link (掃除) agri@kesajin.link (農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。